



## 貨物会社は社員へ還元を！ ＝夏季手当満額支給へ決起＝

六月八日JR貨物会社本社前で、夏季手当三・〇ヶ月満額支給を求め、全国貨物協議会が主催する集会が開催された。中曽根副議長の司会で始まり、本部・伊藤委員長、全国貨物協議会・星野議長、東京地本・笹原書記長から挨拶を受けた。各氏挨拶の中で、「不採用問題は四者・四団体がまとまって要求を提出しており、解決に向けた取り組みに全力をあげている。貨物夏季手当については三回交渉を行ってきた。厳しい生活実態から三・〇ヶ月要求は譲れない。貨物会社は六期連続赤字で社員には感謝しているといっているが、社員への還元を果たしていない。他労組も二・六ヶ月以上を要求している。民営化以降、鉄道部門の社員数は半減したのに、売上高は六割増加、資産も二倍近くになっている。しかし社員は要員不足で年休が取りづらく休

新橋支部、  
28才と26才の  
運転士が国労加入

6.30  
7.1



後、一日の行動を終了した。

JR東労組内部からも悲鳴と落胆の声が出ており、まさに「JR東労組の再生は不可能となっている。《ジェイアール労働組合結成宣言》が、現実味を帯びてきている。近々出される判決は司法判断となるが、これからしばらく、JR内労働組合組織（特にJR東労組）の動向について、目を離せないことになりそうだ。

国労本部提起の六月中旬中央行動が、一八日から二二日まで取り組まれた。行動の主催を四者・四団体とし、国土交通省・鉄道運輸機構に対し「交渉テーブル」設置を求めるところを内容としたもの。突入集会冒頭であいさつをした国労本部・佐藤委員長は、「国労採用事件公判が七月二日に決定し北海道に続き民主労九州ブロック対策委員会も設置された。国鉄闘争連帯カンパ箱は九七五件十三百万円集まった。一万人アピール運動も目標の二万人を越え、七月には政府に提出し集会を開催する。更に自治体決議も六九議案一、〇五九に上るなど政治環境は整った。我々の団結を内外にアピールし政治

解決をめざす」と決意を述べた。続いて、各参加団体や支援・共闘の仲間からの激励と連帯の挨拶を受けながら、一日目の座り込み行動を終了した。地本は本部指示に基づき、一八日午後から地区

本部・支部別に地元国会議員（国土交通委員・厚生労働委員）に対する要請行動も取り組んだ。一九日から同様の行動が取り組まれ、最終日の二二日まで、延べ一、五〇〇人が行動に参加した。日出動もさせられ、このままでは安全・安定輸送が脅かされる」と、報告とともにJR貨物会社に訴えた。続いて、北海道貨物協議会・金子議長、関東貨物協議会・吉田事務局長、東海貨物協議会・瓜田議長から決意表明を受け、東日本本部・坂本副青年部長のシュプレヒコールで集会を終えた。昼食休憩後、東京学院内で「JR貨物の現状と経営課題」と題して、本部・本間中執から報告を受ける学習会を開催。行動集約を行った後、一日の行動を終了した。

今月一七日、JR東労組浦和電車区脱退・退職強要事件の判決が東京地裁で言い渡される。この事件は〇一年二月二八日、当時浦和電車区運転士であったY氏に対し強制的に東労組を脱退させ、更に七月三二日にJR東日本会社を辞めざるを得なくなった事に対して、〇二年一月一日、JR東労組大宮地本梁次副委員長ら東労組組合員七名が強要（強要罪・刑法第二二三号）したとして逮捕・起訴されたもの。

## 分裂始まるJR東労組

＝見逃せない...＝

### 7/17に判決 浦和電車区強要事件

この組織の結成宣言には、「松崎前顧問を『創始者』と崇め、その目的を、松崎前顧問を守ることへ歪曲した」「横領疑惑などの真相究明を求める役員・組合員に『文句があるのなら組合を出て行け』役員を辞任しろ」「組合員として認めない」「サークルへの参加を認めない」「横領などない。権力のどつちあげ」などと言いつつ、疑問に真摯に答えない。さらに、『代議員への立候補』『会計記録の閲覧』を求めた組合員に『組織破壊者のレッテルを張り、執行権・組合員権を剥奪した』『常軌を逸した追及行動が行なわれ、『安全・安定輸送』が脅かされかねない』『JR東労組を牛耳る革マル派系役員による暴挙は、その暴走に拍車をかけている』と書かれている。

# 四者四団体で「交渉テーブル設置」求める



組合員の購読料は組合費に含まれます  
荒川区西日暮里2-55-1  
国鉄労組東京地方本部  
発行責任者 阿部力  
編集責任者 宮崎浩則

No. 1688 定価 15円  
2007年  
7月5日

## 国労加入を 大胆に訴えよう

更に四日後の二二日、横浜支社・千葉支社などに在籍するJR東労組組合員とJR東労組を除名された元組合員らが、『ジェイアール労働組合』を結成した。委員長には横浜の本間氏、副委員長には千葉の野口氏、書記長には高崎の小林氏が就任した。

国 労 東 京 労 働 講 座

メンタルヘルスで学習会開催

六月一六日恒例となった、福対部・教宣部共催による国労東京労働講座が南部労政会館で開催された。

今年の講座は、「メンタルヘルス不調について考える」を、働く者のいのちと健康を守る東京センター事務局長・色部祐氏、「年金をはじめとする社会保障制度改善の取り組みについて」を、社会保険労務士の滝口修一氏からそれぞれ講演を受けた。

色部氏は、「五月三十一日朝、NHKで過労死自殺特集が放送され、東京センターに全国から多くの相談が寄せられた。長時間労働により二〇代三〇代の若い労働者が健康破壊や死亡、うつ病の発症などで自殺に追いやられている。構造改革路線による労働の場での市場主義・競争原理により過労死、過労自殺、



色部 講師

メンタル不調は増加の一方である。しかし、労災認定率は二〇％と低く、あきらめて労災申請しないことが多い。メンタルヘルス不調の人は「弱い人だから」と思われがちだが根本の原因は長時間労働にある。労働組合として、一人は万人のために、万人は一人のために、を合言葉に、労働法制や通達、指針に強くすることが必要。労安委員会の確立、労働者の権限をつけることである。日本の異常な働き方を変えて命と健康が大切にされる職場と社会をつくる」と訴えた。



滝口 講師

滝口氏は、「今国会で話題になっている『消えた年金問題』について、年金手帳の氏名に振り仮名がないので読み方を間違えやすいこと、手続きを事業所にやらせていること、そしていまの厚生年金法は既得権を保護しながら九八回ぐらい改定し、『附則』が膨大な量であることなどから、間違いが起きやすいシステムであった。また、記録を廃棄してしまったことは言語道断である。



東日本・藤野副委員長

社会保険庁の業務の怠慢もある。起こるべくしておきた問題。そして、被害者救済の法律を作った乗り切ろうとしていることは問題」と訴え、あわせて社会保障制度の意義、厚生年金について、特に給付額の計算方法などについて分かり易い説明がされた。

新設資格は「狭き門」

日本鉄道施設協会による、新たな資格制度が今年度からスタートした。資格の名称は「レールエンジニア」「コンクリートエキスパート」「土木構造物メンテナンス技士」の三種。資格取得で何ら恩恵はないが、五月末、初めての試験が行われた。

平成一九年度 新規採用者の皆さんへ

今号で予定していた皆さんの休日内容のお知らせは、紙面の関係上次号にてお知らせすることとしました。

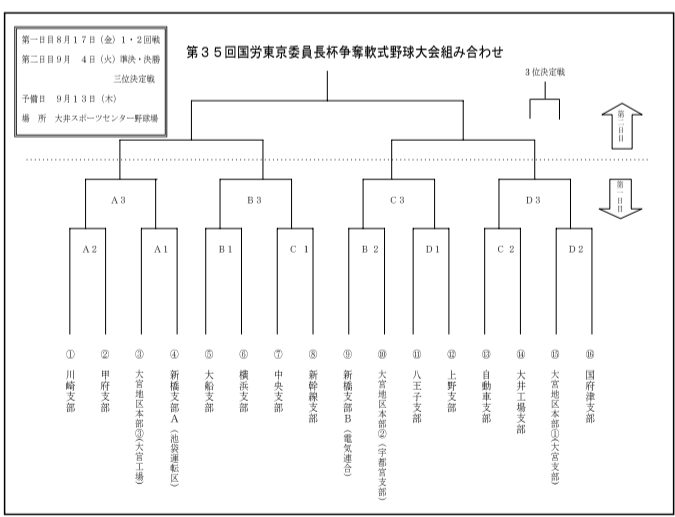
地本野球大会組み合わせ決まる

六月一五日、第三五回国労東京委員長杯争奪軟式野球大会に向けたキャプテン会議が開催された。

地本野球審判団坂本審判長より、今年度のルール改正、特別ルールの変更点など説明を受けた後、準備支部の取り扱い、他労組員参加の人数、地区本部選出と支部選出の整合性などの議論を行った。

結果、今年の準備支部は新橋支部として参加は二チームとする、他労組員参加の制限は設けられないが、バッテリーを除く、今後は全体の意見を聞いてチーム編成の変更はありうるが、今年支部対抗を原則と決定し、組み合わせ抽選に移った。

一喜一憂の抽選会の結果、下段の組み合わせとなった。とにもかくにも怪我なく親睦・交流が深まることを願いつつ、八月・九月の本番に向けた準備を要請する。



Advertisement for AFAC American Family Life insurance, highlighting cancer coverage benefits such as 100,000 yen for diagnosis and 10,000 yen per day for hospitalization.

Advertisement for Abenieru Co., Ltd. offering life insurance for cancer and other diseases, with a 5,000 yen daily benefit for hospitalization.

Additional information regarding the new qualification system, including the number of candidates and pass rates for various roles like 'Rail Engineer' and 'Concrete Expert'.